第17回 ネイチャーキッズ特派員

とうほく南三陸探検隊

ネイチャーキッズ賞作文&体験記録集

プロジェクトについて

公益財団法人世界自然保護基金ジャパンと株式会社カスミは、2002年より環境活動・環境教育の一環として自然体験エコツアーを実施しています。

第17回目の今回も小学校4～6年生を対象として「大切にしたい!自然と生き物」をテーマに作文を募集し、31通のご応募からネイチャーキッズ賞受賞8名を特派員として、とうほく南三陸へ派遣しました。(延べ3,337通の応募作文・160名派遣)

舞台となる南三陸町は、高い山々と広い海に囲まれ、リアス式海岸や分水嶺などの特徴的な地形が有名な町です。

東日本大震災から7年、被災したこの地域では、自然環境の保全と、持続可能な社会づくりを通じた復興をめざし、様々な活動が行われています。

「自然の恵みと人の暮らしのつながり」をテーマとして、多様な生物の生きる南三陸の海と、その海によって成り立っている水産業、そして、そこで生活している人々の暮らしについて学びました。

4日間のツアーの中では、シュノーケリング観察やカヤック体験、また森の探検などを行いました。そこで学んだこと、感じたことなどを子どもたちが「手作り壁新聞」にまとめましたので、ネイチャーキッズ賞の「作文」とともにご紹介いたします。

第17回 ネイチャーキッズ賞入賞者

曾 泰霖
つくばみらい市立陽光台小学校 4年

松下 奈央
土浦市立土浦第二小学校4年

樋野 遥
つくば市立吾妻小学校 6年

樋野 葵
つくば市立吾妻小学校 6年

石田 龍成
柏市立柏第八小学校 6年

小野 真心
土浦市立下高津小学校 5年

原 碧希
佐野市立界小学校 5年

荒井 千波
龍ケ崎市立八原小学校 5年

ネイチャーキッズ賞作文・探検隊員手作り壁新聞 4面～11面
作文&体験記録集はカスミのホームページでもご覧いただけます。http://www.kasumi.co.jp/

WWF奨励賞入賞者

- ●雨倉　琉偉　千葉市立泉谷小学校 6年「大切にしたい 自然と生き物」
- ●打木　真里愛　ひたちなか市立津田小学校 6年「自然の命の大切さ」
- ●岡安　翼　春日部市立牛島小学校 6年「大切にしたい! 自然と生き物」
- ●土蔵　拓　江戸川区立清新第一小学校 6年「大切にしたい海と魚などの生き物たち」
- ●海老根　拓斗　茨城大学教育学部附属小学校 5年「一つの命を守るため」
- ●保川　仁　柏市立中原小学校 5年「植物連さの頂点にいる人間の責任」
- ●土蔵　めぐみ　江戸川区立清新第一小学校 4年「山に住む動物たち」
- ●小林　知花　流山市立小山小学校 4年「魚がたくさんとれる海にするために」
- ●山下　未有　練馬区立光が丘春の風小学校 4年「大すきな動物たちとそのみの回り」
- ●杉山　たまき　開智望小学校 4年「大切にしたい、密林とトラ」

カスミ奨励賞入賞者

- ●岡野　将弥　阿見町立あさひ小学校 6年「大切にしたい! 自然と生き物」
- ●山脇　優亜　町田市立町田第二小学校 6年「体験や経験を通じて」
- ●石塚　大　千葉市立仁戸名小学校 6年「我が家の水槽から広がる未来」
- ●児嶋　悠斗　真岡市立真岡小学校 5年「大切にしたい!自然と生き物」
- ●西本　誠歩　つくば市立松代小学校 5年「川遊び」
- ●石井　一樹　つくば市立春日学園義務教育学校 5年「植物を植えて自然を守ろう」
- ●長嶋　一樹　常陸太田市立太田小学校 5年「沖縄の自然と日本の里山の未来」
- ●高橋　秀斗　つくば市立春日学園義務教育学校 5年「人々の生活と自然」
- ●大西　美樹　つくば市立春日学園義務教育学校 5年「植物のアシスタント[ミミズ]」
- ●倉持　わかな　つくば市立学園の森義務教育学校 4年「ホタル」

ネイチャーキッズ特派員 概要

作文募集 4/2～5/21

7/14 任命式（説明会）

ネイチャーキッズ賞の8名に探検隊としての任命証を渡しました。

ツアー実施 7/22～25 探検隊プログラム

7/22 町を知る

東京駅を出発し、南三陸に到着。南三陸の町を見学しました。

7/23 海を感じる

シュノーケリング観察会と、カヤック体験をしました。

7/24 海と共に生きる力を育む

神割崎キャンプ場でテント設置からキャンプを実施しました。

7/25 海と共に生きる力を育む

キャンプ場周辺の散策をしました。

8/25 体験のまとめ報告会

ツアーから戻ると体験の記録や感想を手作り壁新聞にまとめ報告会を開いて内容をそれぞれに発表し、体験を振り返りました。

●発行・編集／WWFジャパン(公益財団法人世界自然保護基金ジャパン)
株式会社カスミ
●お問い合わせ／株式会社カスミ 環境社会貢献部　TEL 029-850-1824　9:00～17:00(土・日・祝除く)

多様な生物の生きる南三陸の海と人々の暮らしについて学んだ3泊4日のエコツアー

南三陸町の海は、寒流（親潮）と暖流（黒潮）がちょうど混ざり合う穏やかな湾で、カキ・ホタテ・ワカメの養殖が盛んな漁場です。
山と海も非常に近く、シュノーケリングやカヤックによる海の観察と、地元の食材を味わうことで「食」と「自然」のつながりを学びました。

海を感じる「シュノーケリング観察会&カヤック体験」

海の中の生き物や植物を観察する

南三陸の宝物の海。
海に入って海藻や生物を観察しました。

水面に座るかのような目線で乗るカヤック。レクチャーを受けて、上手にハンドリングできました。

町を知る「町の散策」

震災後の南三陸町を巡り自然の大きさを知る

平成28年11月にオープンした南三陸・海のビジターセンターでは周辺の自然(鳥や魚・植物)志津川湾についてを学びました。

田束山（たつがねさん）は古くから山岳信仰の霊山として人々の信仰を集めてきました。太平洋を一望でき、5月下旬には5万本のつつじで山全体が朱色に染まるそうです。

海と共に生きる力を育む「神割崎キャンプ場 キャンプとBBQ」

キャンプ場では自分たちでテントをたてるところからはじまりました。

薪に火をつけるのは、マッチを使うところから苦労していました。

夜は火を囲んで一日の振り返りを

朝ごはんは牛乳パックを利用してパンを焼いて食べるなど、貴重な体験をしました。

森にふれる「森のトレイル」

森と海の深いかかわりを知る

神行堂山麓の杉林の奥深くに横たわる巨石を訪ねました。大自然が創った不思議な造形です。
人々は代々巨石を神のよりどころとして、崇めてきました。
昔、子供達の成長の証として、この巨石の裂け目をくぐりぬける儀式をしたそうです。

お世話になったみなさん 4日間ありがとうございました

NPO法人海の自然史研究所
海のビジターセンター長
平井 和也さん(ピース)

NPO法人海の自然史研究所
海のビジターセンタースタッフ
畠山 友美子さん(オリーブ)

第17回ネイチャーキッズ特派員とうほく南三陸探検隊のはるっぺ、あいちゃん、なりたつ、おなか、まっちゃん、ち～ちゃん、なっつ、あべっち、お久しぶりです!
オリーブです!みんなに会ったのは今年の7月。時間が経つのは早いですね。お元気ですか?オリーブはさっそく、次、みんなはいつ南三陸にきてくれるかな～と楽しみにしています。
今回、作文を書いて南三陸にきてくれたように、これからもいろいろな場所に行ったりしたくさんのことを経験して、その経験を大切にしてくださいね。どんな経験も自分を強くします。
オリーブもみんなに会えて一緒に過ごした時間、経験したことを大切にします。
また、南三陸で会いましょう!みんなありがとう!

海の自然史研究所の皆さん/イールズの皆さん/民宿 下道荘/ちょこっと/カメラマン(佐良スタジオ)佐藤信一さん

発刊によせて

株式会社カスミ 取締役会長
小濱 裕正

WWFジャパン様との協働で2002年より当事業である自然体験エコツアーを実施して17年目となり、今年は東北南三陸を体験のフィールドとして訪れました。震災から7年、子どもたちは現地の方々と接し、町の復興過程を見聞きすることにより、たくさんのことを感じ学んでくれたことでしょう。

また、南三陸には山・森・川があり、それが繋がりあって豊かな海をはぐくんでいることを、霧の中の山を歩き、シュノーケリングやカヤックでの海の観察で知ることが出来たと思います。

とうほく南三陸探検隊に参加した後に、特派員の子どもたちが作成した壁新聞には南三陸町をみんなに知ってほしい、大人になったら住みたいとも書かれています。子ども達の目で見てきたままの感性豊かな描写でまとめられている壁新聞を皆様も是非ご一読ください。

このような体験を通して自然を大切にする気持ちを育み、環境問題に少しでも関心を持ってもらいたいと考え、WWF様と共に環境教育の場の提供を今後も続けていきたいと思います。

WWF ジャパン 事務局長
筒井 隆司

とうほく南三陸探検隊のみなさん、お疲れさまでした。皆さんが元気で家に帰り、ほっとしています。

探検隊の活動の中で、皆さんにとって、何が大変だったでしょうか?知らない人と、知らない所に行くのは勇気がいりますよね。海や森では天気や気温も思いどおりにならず、大変でしたね。

思いどおりにならない自然ですが、日本人は、ずっとその大きな仕組みの中で豊かに暮らす工夫をしてきました。自然を理解し、その恵みを大切に利用しながら生きてゆく知恵を生んだのです。

南三陸の方々の多くは東日本大震災で大切なご家族や財産を失いました。新しい生活を築こうと頑張っている方々と接して何を感じましたか?どんな環境の変化にあっても、生きることをあきらめなければ、必ず道は拓けます。苦しいこともいつかは通り過ぎて行きます。

探検隊の皆さんは、地球の環境について考えて行く大切な仲間です。一緒に助け合いながら美しい地球を守ってゆきましょう。

©1986 Panda Symbol WWF
® "WWF" is a WWF Registered Trademark